

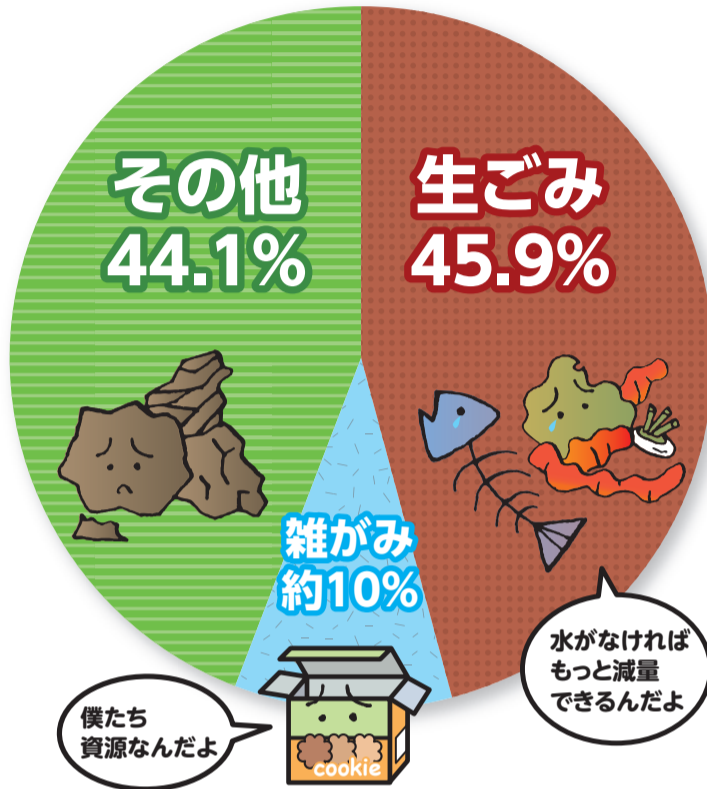
資源化 大作戦!!

地球環境を守るために、ごみの減量を!

所沢市のごみ処理費用は、年間で約52億円(平成23年度)、市民1人当たり約15,300円です。ごみを減らせば、処理費用を節約でき、他の事業にお金(税金)を使え、住みよいまちにすることが出来ます。市民の皆さんのご協力で、ごみの量は年々減少傾向にありますが、まだまだ減らすことができるのが「燃やせるごみ」の中に含まれる「生ごみ」と「雑がみ」です。この2つを分別し、資源化することにより、全体のごみを3割以上削減することも可能です。

資源循環推進課 ☎29998・9146 FAX 29998・9394

総ごみ量の約7割は燃やせるごみです
◆燃やせるごみの中の生ごみと雑がみの割合



初級編 生ごみの減量

◆ごみのほとんどは水分!

生ごみは、7~8割が水分といわれています。



- ①ぬらさない
- ②水を切る
- ③乾燥させる

だけでも多くの減量効果が期待できます。ちょっとした心がけで簡単に取り組みますので、さっそく実践してみましょう。

①ぬらさない

皮をむく野菜は洗わない。また、皮は新聞紙で作った箱などに入れ流しに落さない。



②水を切る

水切りネットなどで水分を絞る。または、捨てる前にぎゅっと手でひと絞りするだけで、重量が1割減るといわれています。



③乾燥させる

トレーや紙で折った箱などに一晩置くだけで、水分がなくなります。



知っていますか 生ごみの削減方法

上の図のとおり、燃やせるごみの約4割を占めるのが生ごみです。生ごみは、次のことを実践するだけで簡単に減らすことができます。

- ①食材を買いすぎない
冷蔵庫の中を見てから買い物に行き、余計なものは買わない。
- ②作りすぎない・食べ残さない
食べきれない分だけ作り、作った物は食べ残さない。
- ③食材を使い切る
余った食材で、別の料理を作り食材を使い切る。
- ④生ごみは水分を減らして出す
初級編(左上)を実践するだけでも、減量効果があります。
- ⑤生ごみを堆肥化する
生ごみ処理機器(中級編で紹介)を使って資源化する。

今回は、生ごみの削減方法として④と⑤を具体的に紹介します。初級編から始めて、左のページで紹介している生ごみ減量・資源化アドバイザーのように「生ごみ減量の匠」を目指してみませんか。

置き場所	室内	屋外	室内	ベランダ・軒下	屋外	庭	
処理機器の種類	電気を使う		電気を使わない				
	乾燥式	バイオ式	EM容器	くうたくん	段ボールコンポスト	生ごみカラット	コンポスト容器
特徴	▶温風で乾燥 ▶室内で使用可能	▶微生物が分解 ▶臭いが出るので室外に設置	▶EM菌(有用微生物群)で処理	▶動物の消化酵素で処理 ▶臭いが少ない	▶処理器が安い ▶臭いが少ない ▶ふたをすれば虫が出にくい	▶生ごみを乾燥して減量する ▶乾燥すると臭いが軽減	▶土に20~30cm埋めて使用 ▶土の中の微生物で分解 ▶分解が速い
価格	5~6万円	4~5万円	3千円程度	7千円程度	材料費として2千円程度	2千円程度	4~8千円

中級編 生ごみ処理機器を使う!

生ごみ処理機器(左表参照)で、生ごみから堆肥を作ることが出来ます。自家製の生ごみ堆肥から作った野菜の味は一味違います。ライフスタイルにあわせて使ってみましょう。

雑がみの分別編

◆出せるもの

- ▶菓子箱▶包装紙
- ▶紙袋▶服のサイズ札▶値札▶トイレ紙▶ペーパーなどの芯▶カレールー▶レトルト食品などの箱▶コピー用紙▶リーフレットなど
- ▶ホチキス針は付いたまま出してもリサイクルできます。

◆雑がみの簡単な出し方

いらぬ紙袋に雑がみを入れ、中身が出ないように、ひもで十字に縛って集積所に出してください。

◆ひと手間かけると出せる雑がみ

- ▶カレンダー▶画用紙▶金具を取る▶ティッシュペーパーの箱▶フィルムを取る▶ラップの箱▶刃を取る▶窓付き封筒▶フィルムを取る

◆出せないもの(禁忌品)

禁忌品とは「製紙原料にならない異物」のことです。

雑がみの中には次のものは絶対に混ぜないでください。

- ▶シールおよびシールの台紙▶アイロンプリント紙▶感熱紙▶感熱紙のレシート▶カーボン紙▶洗剤、たばこ、線香の箱(においが付着しているため)▶紙コップ▶紙皿▶お酒のパック▶缶ビールの6年パック▶油などで汚れた紙▶牛乳パック(集団資源回収や店頭、拠点回収の回収ボックスに出してください)

洗剤